

令和6年度 第1回西宮市環境審議会 議事録（発言要旨）

- 開催日時：令和6年11月20日（水）13：30～15：30
- 開催場所：西宮市役所 第二庁舎 601、602 会議室
- 出席委員：岸川会長、大久保副会長、能登委員、池永委員、藤原委員、山本委員、松原委員、中村委員
- 欠席委員：上田委員、小山委員
- 事務局：大西環境局長  
尼子土木局長  
鮫島環境総括室長  
藤原公園緑化部長  
(環境企画課)谷口課長、竹内課長、中村係長、飯沼係長、瀧川係長、福島主査、鍵本主査  
(美化企画課)藪内課長（欠席）  
(花と緑の課)船越課長、北田係長  
(施設整備課)太田課長  
(施設管理課)高橋課長

1 開会

2 議題

(1) 協議事項

第3次西宮市環境基本計画の令和5年度実績の評価について

事務局より第3次西宮市環境基本計画の令和5年度実績の評価について説明（資料1～2）

【資料1】第3次西宮市環境基本計画の概要及び令和5年度実績の評価結果について

【資料2】令和6年度（2024年度）版環境報告書

- ◆低炭素について、家庭部門の二酸化炭素排出量の割合が順調に減っているが、1点目に今回の削減に対してどれくらい電力排出係数の低下が影響しているのか。家庭部門の減少について、主な要因（例えば人口の増減、建築物建て替え時のZEH・ZEB化などの建築物対策、個々の家庭の省エネ対策や再エネの太陽光パネルの設置など）を分析しているか。
  - 2点目は資源循環について、昨年と比べると事業系・生活系ともに若干減少している。令和5年度もコロナの影響が続いているのか、指定ゴミ袋制度の導入の効果のためか、理由を教えてください。
  - 3点目は生物多様性の短期目標①について。令和5年度の追加種数が16、内訳（在来種12種、外来種4種）となっているが、目標には外来種も含むのか。
- 行動目標の「学びあい」について、従来とは違う方法でアースレンジャーを認定して人数

が回復しているが、認定方法について冊子（環境報告書）にも未掲載のため教えてほしい。（委員）

→電力排出係数について前回より下がっているため、それが二酸化炭素排出量の減少に反映されている。家庭部門の減少については、省エネルギー機器の導入や推進の効果やコロナ生活を経て家庭で使う電力量が減ってきたという要因が考えられる。（事務局）

→事業系ごみ排出量について、コロナ禍で平成31年～令和2年の間に事業活動が停滞しゴミは減少した。令和2年度～令和3年度は横ばい状態。令和2年度に事業系の指定ごみ袋制度を開始したため、さらに10%減少した。近年のごみ総排出量の減少については、コロナと指定ごみ袋制度導入の効果であるが、今後の情勢も観察していきたい。（事務局）

→生物多様性についてですが、環境目標の短期目標①の追加種数16種には外来種も含まれている。目標としては在来種を対象としており、12種である。（事務局）

→EWCのアースレンジャー認定方法について。コロナ禍で地域でのスタンプの押印が中止となったため、エコチャレンジブックという冊子に課題を載せて、自分で実践後エコカードを提出したら認定するという方法にした。（事務局）

◆生物多様性の短期目標は在来種を対象にしているため、ここでの書き方は12種になると思う。外来種の状況について、追加で増加しているものや、以前からいるもののうち顕著に増加しているものがあるか。（委員）

→昨年度生瀬の方で、桜を食害するクビアカツヤカミキリの生体が発見された。西宮浜でツヤハダゴマダラカミキリが発見されている。顕著な増加としては、その2種類である。（事務局）

◆近年では、街路樹が切られ、まちの緑の割合が減っている。

緑化により温室効果ガスが減少するという緩和作用がある。今、植え替えを進めていると思いますが、緑化推進をしてほしい。また、地球温暖化は二酸化炭素の影響だけではなく、メタンガス等の影響もある。微量であれば問題はないが、そちらについても対策を検討していただくと同時に、二酸化炭素の吸収のため、緑化推進として、街路樹の整備をきちんと進めてほしい。

生物多様性の長期目標について、西暦2000年前後の兵庫県資料等が参考になると思う。外来種はマイナス要因であるため、侵略的外来種を無くすとか、外来種を削減するように目標を立ててほしい。

生物多様性とは種の多様性だけではなく、生態系の多様性と、遺伝子の多様性の3つがある。遺伝子の多様性については難しい部分もあるが、環境DNA調査などの新しい手法も検討してほしい。西宮市にある群落の地区ごとに、目標達成しているか調査できたら望ましい。

なぜ、いきものはっけんの参加人数が0なのか。（委員）

→街路樹の件だが、危険木について、調査の結果、腐朽率70%を超えているものを判定して精力的に除去している。そういった中で、切り株をとって新しく植える作業はできていないのが現状である。今、街路樹の管理基本計画を策定している。計画が定まった段階で、新たに補植が必要なところに植えていく。

長期目標、短期目標については、2019年の策定当時の目標数値である。2026年から改定の準備を始めるので、委員のご指摘の視点を参考にしながら、改定作業を進めていきたい。

(事務局)

→短期目標のいきものはっけんが0というのは、昨年度10年に1回の市民自然調査を実施したため、夏と冬のいきものはっけんという事業は実施しなかったということである。(事務局)

◆街路樹の件ですが、高木と低木で区別しながら見通しがいいように剪定すべきである。

また、種数も動物と植物に分けてはどうか。動物を、哺乳類、鳥類、両生類などと細かく分けることもできる。鳥類について西宮市は非常に詳しいデータがでていいる。種数は多い方がいいが、外来種が多い場合は問題が生じてしまう。植物が減少したら、動物も減少するので、植物の多様性は重要であり総合的に考えて進めてほしい。(委員)

◆低炭素のところで、データが2020年、2021年度で目標46%に対して順調に減少しているが、コロナの影響によるものか、それとも関係ないのか教えて頂きたい。(委員)

→コロナで家庭部門では使用電力が増えたが、市民の省エネ活動の意識が高まり、使用電力を節電するようになったことも影響している。コロナ以降、この推移が維持できれば先の目標につながっていくのではないかと考えている。(事務局)

◆低炭素のところで、電力排出係数が平成25年～令和3年にかけて約42%減っている。関西電力でも0.43くらいで厳しい数値だが、西宮市でこれほど減った理由とどう計算されているのか教えてほしい。(委員)

→排出計算は国の統計データを参考にして、部門ごとに国から情報をもろう。それをそのまま使用するのではなく、市域全体のエネルギー使用量を把握してエネルギーに対してCO<sub>2</sub>の換算をかけるなどしている。電力会社からの排出係数には大きく影響を受ける。関西電力も原発を稼働するなどして下げようとはしているが、そこに依存することは避けられないと考えている。CO<sub>2</sub>全体について、排出係数以外にも省エネ等考えていかななくてはならない状況ですが、排出係数を注視しながら、どのように対応できるか検討していく。(事務局)

◆日本全体が取り組もうとしている46%削減という目標に対して、なかなか順調に推移していない状況でここまで削減しているのはすごい数字だと思う。排出係数は影響が大きいので、どう計算しているのか。(委員)

→2028年46%というのは高い目標だが、今後調査をしながら考えていきたい。(事務局)

◆街路樹の話ですが、私の家の近くが造成され、西宮市に自治会からやめてほしいと要望を出したが止めることはできないと言われた。環境局は緑を守ろうとしているし街路樹も増やそうとしている一方で、都市計画の方ではマンションの建築も進めている。市全体として相反すると思うが、どう考えているのか。(委員)

→開発行為で緑が減る一方で、緑化を進めるということは、我々も永遠の課題なのではと思っている。民有地の開発については、都市局の開発部門から、要請事項として今の現況の緑を残して開発をするよう要請している。緑化率などのバランスをとりながら指導していかなければならない。法的な私権の制限の中で、どこまで条例の範囲で土地利用に制限を

かけるのか大きな課題である。生物多様性の観点から、育まれてきた生態系を残していきたい。(事務局)

- ◆目神山の木というのは、何十年も立っている。一度切ってしまうと、何十年も木が育たないということだけ言わせてほしい。(委員)

## (2) 報告事項

### ①第3次西宮市環境基本計画の中間改定に関する報告

事務局より、第3次西宮市環境基本計画の中間改定に関する報告について説明

【配布資料】第3次西宮市環境基本計画<2024改定>

- ◆マイクロプラスチックに関することで、2022年4月に施行された「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」に準じて見直しがされているのか。特に西宮の海岸部では非常に多いが、マイクロプラスチックを含めたプラスチックゴミの削減についての検討をお願いしたい。(委員)

→「プラスチックに係る資源循環の促進等に関する法律」に準じて、平成24年からの容器包装プラスチックと合わせて、令和8年度から製品プラスチックの一括回収を始める。よりプラスチックのリサイクル率を上げていこうと取り組んでいる。(事務局)

- ◆公民館、図書館など生涯学習施設との連携はいい着眼点と思うが、実際にどう活用しているのか、具体的に考えているものがあれば教えてほしい。(委員)

→図書館の方では、ブックフェアとして環境に関する本やパネルの展示をしている。公民館とは、これからどのように進めていくのか決めていく。(事務局)

### ②環境基本計画の進行体制の見直しについて

事務局より、環境基本計画の進行体制の見直しについて説明(資料3)

【資料3】環境基本計画の進行体制の見直しについて

- ◆環境パートナーシップ会議というのは、西宮市の大きな特徴であったと考えている。環境学習都市とのセットもので、環境学習のD oをつなげていくという会議であると理解している。それは今後も変わらないというのであれば、D oをどのように維持していくのか。審議会というのはあくまで審議とチェックで体制が本来違うはず。審議会化していくのではと懸念を持つ方もいると思う。D oのところを統合することにより、どのように進化、強化させていくのかという方針は、西宮市にとってきわめて重要である。その点について話を伺いたい。(委員)

→D oの部分については、計画の推進母体であるパートナーシップ会議で今までやってきた。環境基本計画は、生物多様性、廃棄物減量、地球温暖化対策と個別計画が3つある。その個別計画の推進、進捗チェックをおこなっていたのが部会になる。その部会を審議会に加えるということで、今までの策定・諮問・答申以外の役割として、計画推進やチェックの役割も部会を通して果たしていく。(事務局)

- ◆部会ごとでできることもあれば、統合的な取り組みが必要なこともある。すべて部会で審議

するのではなく、統合的な横軸の部分、そして他部局と連携しなければならない部分について、D o の取り組みができる仕組みをどうやって作っていくか。学習して行動につなげていく西宮市ならではの部分になると期待している。(委員)

→今後、今頂いた意見を参考に進めていきたい。(事務局)

③西宮市環境計画推進パートナーシップ会議の部会の開催報告

事務局より、西宮市環境計画推進パートナーシップ会議の部会の開催報告説明(資料4-1~4-2、5)

【資料4-1】地球温暖化対策関連事業について

【資料4-2】地球温暖化対策実行計画の実績報告について

【資料5】廃棄物減量推進部会の実施報告

④環境まちづくりフォーラム開催報告について

事務局より、環境まちづくりフォーラム開催報告について説明(資料6)

【資料6】2024年度環境まちづくりフォーラム開催報告

(3) その他

事務局より委員の皆様へ御礼の挨拶

3 連絡事項 特になし

4 閉会